

つどいの広場からのお知らせ



絵本紹介コーナー

①こども園運動会への参加 (10/6)

毎年親子何組かが参加して、素敵なお土産をいただきます。今年も参加希望者は広場に申し出てください。プログラムをお渡しします。

②ピョピョコーラス姫路でも披露します。(10/7)

先日の童謡の祭典で、あるお母さんから「ピョピョさんの歌われた曲と歌声に感動しました。」という声をいただきました。そこから、10月7日に姫路のホテルクラウンヒルズ姫路で開催される「18トリソミーの子どもたち写真展」でのミニコンサートへの運びとなりました。(広場チラシ・ポスター参照) 時間のある方は覗いてみてくださいね。

③絵本・体操・タッチセラピーの会場変更 (10/9~)

再三お知らせをしているように、10月から会場を新宮総合支所に変更します。新しい場所ではどうなるかな? 勿論、広場も開放しています。

④藤川司書から嬉しい言葉をいただきました。

9月のわくわく親子講座の内容が目から鱗の方もあったと思います。講演後に藤川司書から皆さんへのメッセージがありましたので、お伝えしておきますね。

「皆さん、真剣に聴いてくださって嬉しかったです。後の感想文も、丁寧に綺麗な字で書かれており、こちらが意図することがきちんと伝わっていると感じられる内容でした。また、その日の帰りにも数組、次の日から図書館に足を運んでこられた親子さんで紹介した本がほとんど貸し出されてしまうという嬉しい結果にもつながりました。素直な素晴らしいお母さんたちの姿に感動です。」

⑤【予告】今年度のクリスマス会スタッフ有志募集中!

昨年まで大ホールで行っていたクリスマス会を今年は12月12日の平日に遊戯室で行います。手作りクリスマス会に変わらないので、自分たちで盛り上げたいという前向きなスタッフさんを募集します。第1回会合は9月28日(金)の草引きの後にいきますので参加します。

「ヒガンバナのひみつ」



かこ さとし 作
彼岸花一つで、こんなに大作絵本が出来上がることに驚きます。そして、この絵本からいっぱい知識を仕入れて、子どもと一緒に観察してみたい

とも思わせてくれる絵本です。先日の藤川司書のお話のテーマは「自然の中で見つける不思議な体験」で、体験と絵本がセットになって感動することの大切さや子どもと一緒に神秘さを再発見し、感動を分かち合ってくれる大人がそばにいることの必要性を教えてくださいました。

絵本といえば、身の周りの身近なものが題材になっていたり、ストーリー性のあるものが一般的だと思っていたので、先日紹介していただいた絵本等には、あまり興味がなかったという方が多いのではないのでしょうか? (女性の場合は特に)

ところが「神秘さや不思議さに目を見はる感性は大人になるとやってくる倦怠と幻滅・・・つまらない人工的な物に夢中になることなどに対する解毒剤になる。」(「センス・オブ・ワンダー」レイチェル・カーソン著 抜粋) →先日の講演会の一節より

と記されているように、子どもの感性を育てる一番の近道は、大人が感動できる感性を持ち続けることなのかもしれませんね。新宮わくわく親子講座生に限定すれば、皆さん感性はあるのですが、感動の表現があまり上手くないかなと? 違ったらゴメンナサイ!

☆知っていますか!

10月の行事

神無月(かんなづき)

October(オクトーバー)

全国の神々が出雲大社に集まり、男女の縁結びの相談をするために、各地の神社は神が留守になるため、そのように呼ばれている。

- 1日 衣替え
- 8日 体育の日
- 23日 霜降
- 31日 ハロウィン

※ハロウィン

古代ケルト人が起源と考えられている祭。元は秋の収穫を祝い悪霊などを追い出す宗教的な意味合いの行事だったがアメリカ合衆国で民間行事として定着し、本来の意味はほとんどなくなっているとか.. かぼちゃの中身をくり抜いて目・鼻・口をつけ、中に火の点いたろうそくを立てる。子どもが仮装して近所の家々を訪れてお菓子を貰う風習がある。キリスト教の祭ではないとされている。

☆こんな親子がありましたコーナー

先日、9月から保育園に通い始めることになったAちゃんとお母さんが広場にあいさつがてら遊びに来られました。

お母さんの「こんにちは」に続いてAちゃんの可愛い「こんにちは」と笑顔が飛び込んできたので、部屋にいた私たちは思わず固まっていました。つい先日の8月上旬の様子とは別人のように落ち着いていたからです。

最近、急に家族で実家に引っ越すことになり、お母さんも働くことが決まったのでAちゃんは必然的に9月から保育園に入ることになったそうです。広場でのAちゃんはお友達の持っている玩具を取る、持っている玩具は貸さない、取られそうになると叩く、嘔む..とお友達とのトラブルが絶えないのでお母さんはAちゃんから目が離せず、大人のことは不信な目で睨むことも多かったのです。そんなAちゃんが、笑顔の柔らかい目でこちらの問いかけにきちんと答えられるのですから、思わず固まるのも当然です。「すごく落ち着きましたね」の言葉に「はい、実家の母もそう言ってくれます。」と、いつも以上にここに顔のお母さん。それにしてもこの短期間にAちゃんの中で一体何が起こったのでしょうか?

頼れるのは両親だけという生活スタイルから、可愛がってもらえる家族が一気に増えたことで、今までの何かしらの不安が解消し安定したのでしょうか。保育園入園のタイミングもよく集団生活にも上手く馴染めたのでしょうか。だからといって同居や早期入園を勧めているのではなく、何かの時には必ず助けってもらえる家族や友達が多い方がいい事や、人間は環境の変化に即順応できる凄い力を持っている事をAちゃんから教えてもらったような気がします。これから皆さんは、皆さんを取り巻く環境の変化に右往左往する場面も多々あるかと思いますが、その時こそ慌てずに一度立ち止まって考えて、また進めば大丈夫。必ず良い方向に向かうと信じて進みましょう。

☆知っていますか!

こんな「ことわざ」

○孟母三遷の教え

(もうし さんせんの おしえ)
「孟子の母が、子どもの教育に適した場所を求めて三度引っ越した。」という話からできた言葉で、教育には環境からの感化が大きいという教え。

最初、親子は墓所の近くに住んでいたが、孟子が葬式の真似をして遊ぶので、教育上良くないと考え、市場の近くに移った。

すると今度は商売の真似をするので、学校のそばへ引っ越した。

今度は礼儀作法を真似たので、ここそふさわしいと判断して、住居を定めることにしたと言われている。

環境は大切です。常に考えておきたいものです。

